

ば、いづこにも正しき神おはすなれば、など邪神をばほせぎ給はぬにや、されば神の御うへの事は、かたづめてはいはれぬものなり、たゞ常には尊みて幸を祈り、あらび給ふ時はかしこみてまづまり給はむ事を祈るべきなり、これ世の中にもまかする事にて、すなはちなほき御國のならひなりとまゐるべし、

〔延喜式三臨時祭〕

宮城四隅疫神祭若應祭京城四隅准此

五色薄繩各一丈六尺等分四所已下准此、倭文一丈六尺、木綿四斤八兩、麻八斤、庸布八段、鍬十六口、牛皮熊皮

鹿皮猪皮各四張、米酒各四斗、稻十六束、鯨堅魚各十六斤、腊二斗、海藻雜海菜各十六斤、鹽二斗、盆四

口、坏八口、匏四柄、解十六把、薦四枚、藁四圍、楛棚四脚各高三尺五寸、長一丈一尺、杖一枝、

畿内堺十處疫神祭山城與近江堺一、山城與丹波堺二、山城與攝津堺三、山城與河内堺四、山城與大津堺五、山城與伊賀堺六、大和與伊賀堺七、大和與紀伊堺八、和泉與紀伊堺九、攝津與播磨堺十、

〔今昔物語二十〕讚岐國女行冥途其魂還付他身語第十八

今昔、讚岐ノ國山田郡ニ一人ノ女有ケリ、姓ハ布敷ノ氏、此女忽ニ身ニ重キ病ヲ受ケタリ、而レバ直ク味ヲ備テ門ノ左右ニ祭テ、疫神ヲ路テ此ヲ饗ス、

〔笈埃隨筆四〕疫鬼

洛北一乗寺村金福禪寺の住僧松宗語られけるは、先年備後國三好鳳源寺にて愚極和尚を招き請せり、愚極は梵網經開板の智識にて有けり、則誥度あり、松宗壯年の頃にて此會座に連り、衆僧と俱に禪室に入、結迦趺座し居たり、衆僧も晝夜の勤行に勞れ、膝突にふらくと眠りぬ、然るに松宗不圖頭をもたげ見れば、垂たる帷幕を押上て、堂内を見としくする者有、無禮成奴かなと見留れば、八十計りの老人顔色青ざめ至極瘦衰へ、白髪ふり亂し白髭たれたるは、世にいふ貧乏神ともいふべし、淺間敷様にて座にももの凄く覺ゆる程也、此者そろくと結界を越て堂内に入